

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174800597		
法人名	社会福祉法人みな福祉会		
事業所名	グループホーム大浜 東棟		
所在地	埼玉県秩父郡皆野町皆野302-2		
自己評価作成日	令和2年11月13日	評価結果市町村受理日	令和2年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9
訪問調査日	令和2年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で、食材の買い物や季節ごとの外出は行っていませんが、都合のつく時はホームの周りや畑まで散歩に出掛けて気分転換を行っています。面会について、ガラス越し面会やライン面会を行っています。職員会議や研修、カンファレンス等も法人内のSNSを利用しています。食事に関しては、畑の新鮮な野菜を利用して利用者様と一緒に調理や後片付けの手伝いもやっています。その方の好みを聞いたり、状況に合わせて食事も提供しています。季節の行事や誕生会には、手作りおやつを提供し皆様に喜ばれています。余暇活動は、(制作等)職員と利用者様で意見を出し合ってそれぞれの出来る事をやっています。パソコンに日々の様子は入力し、毎月家族に郵送しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルスの影響により様々な負担がある中、あらためてホームのあたたかなケアを再認識すると共に変わらぬ支援のための様々な工夫に敬意を表します。
 ●利用者の状態の変化を見逃さず、かかりつけ医や往診医に伝えていくことが心掛けられています。利用者にかわり日常生活を正確に伝え、適切な医療を受けられることを使命として取り組む姿勢にホームの真摯なケアを見ることが出来ます。
 ●揚げ物をあげる、ホットプレートで調理をするなど利用者一人ひとりに沿ってできることを大切にされた支援がなされています。リスクを第一に考えて利用者の行動を制限するのではなく、利用者の把握と理解により支援がなされている一例といえます。
 ●新型コロナウイルスの影響から面会制限を行っているが、ソーシャルネットワークシステムでの動画通話を利用した面会を実施しています。詳細なパンフレット作成に本ホームの家族に寄り添う姿勢が現れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価【東棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしく 自分らしく とともに支えあい とともに生きる」に沿うよう、社内SNSを使用し、日々の個別の援助方法の検討や誕生会等の行事など実践している。	新型コロナウイルスの影響にぶれることなくホームの理念実践にあたっている。職員の負担や会議の効率化を図り、変わらぬ支援の実施に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、以前のような買い物や散歩等の外出が出来なくなったが、かかりつけの理容店や訪問診療の件数も増やし対応している。	近隣の方々からの変わらぬ温かな協力もありながら、外出や入室の自粛によりコロナ禍以前と同様の活動は難しい状況となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の中学1年生ボランティア体験学習の受入や、認知症カフェ「いってんべーあつまんべー」を毎月第3月曜日の午前中実施していたが、現在コロナ禍で3月より休止中。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回業務・行事内容の報告や情報提供を行う。コロナ禍で令和2年3月は中止、5月、7月は書面で実施し9月は通常実施する。	新型コロナウイルスの影響から書面開催がなされており、写真を活用しながら利用者の様子や面会の状況を伝えている。また9月には新たな出席者を迎え、ソーシャルディスタンスを保ちながら再開がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度はコロナ禍で、外部評価の実施や運営推進会議開催について相談している。	地域包括支援センター・協力病院と連携し、利用者の支援にあたっている。行政とはメール等にて連携し対応を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業計画の重点事項の一つにあげ、法人施設長が新年度が始まる前の職員会議で職員に説明し、法人全体として取り組んでいる。又、身体拘束廃止委員会を年4回実施、オンライン研修会を8月に実施している。	オンライン研修の実施、ソーシャルネットワーキングシステムを活用したケース検討等コロナ禍にあっても研鑽に努め、身体拘束をしないケア・虐待防止等対応を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業計画の重点事項の一つにあげ、法人施設長が新年度が始まる前の職員会議で職員に説明し、法人全体として取り組んでいる。	/	/

自己	外部	項目	自己評価【東棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は成年後見制度の研修を受講している。入所者のうち1名制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には介護方針やケアのすすめ方等、契約時には具体的な契約内容、個別のケース対応の取り方など説明と相手からの質問など受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度はコロナ禍で面会制限等あり、ご家族と会う機会が少ないため、電話での状況報告やご家族の要望等聞く機会を多く持つよう努めている。	新型コロナウイルスの影響から面会制限を行っているが、ソーシャルネットワーキングシステムの動画通話を利用した面会を実施している。パンフレットを作成し家族にわかりやすいよう配慮がなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理職会議(調整会議)を月2回オンライン会議で実施し、管理者だけでなく各部署の職員も出席し検討している。	ソーシャルネットワーキングシステムを活用したケース会議等が開催されており、情報共有の効率化が果たされている。	来春より職員面談の実施を非正規職員にも広げることを予定しており、意見の集約やホーム内の更なる風通しの良さに反映されることが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行いその評価に応じ年2回の賞与と年1回の昇給に反映させている。、又、昨年度法人として2度目の給与制度の見直しを行い、今年度は人事考課制度の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議はオンライン研修で行い、約10日の間に各自参加でき、外部のオンライン研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秩父郡市地域密着型サービス事業者連絡協議会の会議や年2回の研修会を毎年実施しているが、今年はコロナ禍で休止している。		

自己	外部	項目	自己評価【東棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から、自宅での様子を聞きながら、困り事や要望を確認し現状の把握に努めている。アセスメント表の記入をお願いし、認知に関する状況、性格や生活習慣、排泄状況、睡眠状態、食べ物の好き嫌い、衣類調節(暑がりか、寒がりか)内服薬についても確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、家族と充分に話し合いを行い、本人と家族の関係性についても理解を得るようにしている。通院援助や日用品の買い物も家族と相談をしながら、家族の負担にならないよう援助を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から自宅での生活の様子を聞きながら、具体的にどのような援助や関わり方が必要なのか、どんな事に注意したら良いのか把握に努めケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	男性職員が食事作りの時など、材料の切り方や大きさ、天ぷらの衣の加減・油の温度・煮物の味加減等の料理の基本を教えていただく事がある。入浴やトイレの介助においても、できることはなるべくやっていただいている。職員に依存的な方でも、コミュニケーションを取りながら手先を使う制作活動などで意欲を引き出している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調不良時や日用品の購入等、家族に電話にて連絡を取り相談している。利用者の読みたい週刊誌等を家族に届けてもらっている。遠方の家族からの手紙やお孫さんの写真を送ってもらっている。季節の変わり目に衣替えの衣服をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の理髪店が出張して、散髪をしてもらっている。コロナの関係で、兄弟や家族とガラス越しで面会や予約にてライン面会を行っている。	洗濯物干しなど日常生活の中で役割をもち、習慣を形成している。昔の思い出話をしながら食事作りをするなど利用者に寄り添う支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	TVの好きな方や、利用者どおしの相性を見ながらお席の交換を行っている。会話の内容により、感情が不安定になる方もいるので、職員が間に入り話題を変えて、気持ちを他に切り替えるような援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価【東棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	毎年退所後も、ご家族から菊の花や野菜をいただく事があり利用者にも喜ばれている。、体交枕や防水シーツ等の寄付もあり使わせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に書いていただいたアセスメント表や、日常生活の会話や関わり中から、個々の思いや希望を確認している。困難な場合は、家族に確認したりその都度処遇検討し職員間で情報の共有を図っている。	日常からの観察により発する空気を感じ取り、利用者の意向を把握するよう努めている。積極的に声かけをし、利用者の意思を確認しながらレクリエーションや製作活動に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前後に家族と本人に話を聞いている。入所前に、担当の居宅ケアマネからの情報も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント表や本人・家族の意向の把握。その日によって、体調や気持ちの変化があるので関わりの中から把握し対応している。PCにケース記録を入力し、職員間で情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	法人SNSを活用しカンファレンスを行っている。状態の変化時は、電話にて家族の意見を伺っている。本人からは会話の中から希望を聞いている。通院時に主治医からの指示や、医師の意見書を確認しながらケアプランに活かしている。	職員からの意見や気づきを集約し、ケアプランの更新がなされている。更新後のケアプランは職員間で確認し、日々のケアに反映させるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・食事摂取量・体重・バイタルサインは、個別にPCに入力しながらケアを実践し、職員間で情報を共有し、ケアやケアプランの改善に活かしている。通院時にバイタル表やケース記録を持参し主治医に報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期通院、緊急時の通院支援、日用品等の買い物や本人・家族の希望に応じた支援に心がけている。入院中の洗濯物や必要物品の購入。		

自己	外部	項目	自己評価【東棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、ホームのでの敬老会や地元のふれあい祭り、悠湯ホームの文化祭も中止となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、家族と充分に話し合いをした上で、本人と家族の希望に沿うようにしており、かかりつけ医の受診支援を行っている。かかりつけ医による訪問診療で6名の方々が診ていただいている。	利用者の状態の変化を見逃さず、かかりつけ医や往診医に伝えていくことが心掛けられている。利用者にかわり日常生活を正確に伝え、適切な医療を受けられることを使命として取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格のある職員を計画作成担当者として配置している。体調不良時や緊急時に看護師に報告し、医療機関への相談や、通院支援を行っている。時には、デイサービスの看護師に相談する事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会に行き、病院の担当者等に確認し、家族にも報告を行い退院時の受入に備えている。かかりつけ医へ、入院中の担当医師より情報提供書を書いていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合における(看取り)指針の説明と、緊急時における事前確認にて確認を行っている。重度化した場合には状況を見ながらご家族と相談をして、特養入所の申込を行っている。終末期については、家族や医師と相談しながら対応している	重度化と終末期の支援に対して指針を作成し、入所時に説明している。家族・医師・関係機関等々と連携しながら求める生活・状況を踏まえたケアとなるよう導いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で、集団での訓練ができないため心肺蘇生法、AEDやパルオキシメータ等のマニュアルを作成してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、夜間想定避難訓練を実施し利用者の援助を行いながら戸外へ避難している。地元町会との防災協定を結び、協力をお願いしている。今年度は、コロナの関係で地元住民の方々は参加されず職員のみで訓練を行っている。	新型コロナウイルス感染防止の観点から職員のみにて避難訓練を実施しており、非常事態中も変わらぬ防災体制の維持に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価【東棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉掛けや、入浴・トイレ誘導時などプライバシーに配慮した対応を心がけている。記録や個人情報の取り扱いについても徹底している。また、ボランティアの受入れ・実習生の受け入れ・外部における行事への参加時・通院時なども個人情報に対する配慮をしている。	目上の人として敬語の使用など丁寧な対応が心掛けられている。各種取り組みからは利用者に無理強いをしないケアが一貫していることが理解できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちに寄り添い、日々の関わりを大切にしている。食事やおやつも食べたい物を聞き一緒に手作りする事もある。誕生会は、希望を聞きながら手作りし皆で祝っている。コロナの関係で、食材の買い物は職員のみで行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護的に重度化の利用者への対応もあり、その時々で利用者の状況にも変化があるので、個々のペースに合わせての対応が不十分な事もある。入浴のない時は、その時の状況を見てホームの周りや畑まで散歩に外出する事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗顔のできない方には、蒸しタオルで援助を行っている。起床時・入浴後の髪型を整えている。手の爪白癬の方に、爪切り等定期的なケアを行っており改善されている。乾燥肌の方には、入浴後等保湿を行っている。定期的に、近くの理容店に出張していただき散髪をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りコロッケ・ハンバーグ・餃子・焼きそば等を職員と一緒に作っている。たこ焼き器やホットプレートを利用しおやつ作りを行っている。利用者から、食べたいメニューやおやつを聞いて提供する事もある。旬の野菜、山菜料理や年に2回の寿司バイキングも喜ばれている。食器の洗浄や洗浄した食器を拭いてもらうこともある。	利用者の口腔状態・能力ににあわせて食事形態を変えて提供にあたっている。揚げ物をあげる、ホットプレートで調理をするなど利用者一人ひとりに沿ってできることを大切に支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事状況は毎食チェックしている。食事形態も個々で提供し、嚥下力や歯の治療中等、その方に合わせた食事を提供している。乳酸菌、甘酒、ポカリスエット等好みの飲み物を提供している。体調の変化に応じた食事提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の状況に応じて、食後のうがいや歯磨きは声掛けをし、夕食後の義歯洗浄も職員が預かり行なっている。歯科の訪問診療で義歯の調整をされている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価【東棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンや排泄のサインを見て、トイレ介助を行っている。大腿骨頭部骨折の手術後の方も、本人の訴えがある時にはトイレ誘導し援助を行っている。排泄状況も排泄表に記録し、下剤のコントロールやケアに活かしている。同性介助のケアを拒否される方は無理に行わず、様子を見ながら対応しているが十分にケアが行き届かない事もある。	排せつの記録と確認により利用者に沿った支援にあたっている。医師の指示を仰ぎながら適切な排せつとなるよう投薬・食事の工夫等によりコントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の排泄状況を確認しながら繊維質の野菜や乳製品を取り入れ、水分補給も行っている。食前体操等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き、入浴回数を増やしたり、都合により入浴出来なかった場合には、入浴日の変更等調整を行っている。体調不良時には、清拭・着替えを行っている。入浴の順番も公平に入浴できるように掲示している。	入浴の拒否がある場合は声のかけ方を変えたり職員を変えたりと利用者の特性の把握をもって支援にあたっている。頭・足等部分的に洗うなどの工夫をもって清潔の維持に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は、その方の状況や時間を見ながら休んでいただいている。部屋の温度や照明は利用者の様子を見ながら環境整備を行っている。希望を聞きながら、湯たんぽや電気毛布使用している方もいる。寝具類の天日干しやシーツ交換等を行い安眠の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルを作成し、現在服用している薬を理解し、薬をセットする人、薬の確認をする人、服用の確認をする人の3人の職員で対応している。法人SNSを利用し、薬の変更や中止薬等情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に調理、洗濯物を干したり畳んだり。針仕事など簡単な家事等をやっていたりできるよう支援を行っている。個人的に新聞を取っている方もいるので、ホームの新聞と区別できるように新聞受けを作った。毎日雑記帳を書いている方にはノートやボールペンの購入をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの関係で、職員と食品の買い出しやホームでのドライブも中止している。お天気を見ながら、屋外への散歩やホームの菜園まで散歩を楽しみながら、野菜の収穫に出掛けている。	コロナ禍にあっても敷地内の散歩等にて気分転換を図っている。花見等の外出行事を通して利用者に楽しんでもらうことを望み、終息を待っている。	

自己	外部	項目	自己評価【東棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	たまにホームの電話から、息子さんに電話をかけている方やご自分の携帯電話から、娘さんに電話をかけてい方がいる。絵手紙の先生や遠方の家族に手紙を出せるように、レターセットを購入したりポストに投函するなどが実施されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の草花を生けたり、利用者が制作した貼り絵や切り絵等を飾ったり、寛げる空間を作っている。新聞・雑誌・テレビ等自由に見てもらっている。テレビの好きな方には、テレビが見やすいようにお席の配置も考えている。	リビングにてレクリエーションや会話を楽しむ利用者が多いため、よく触れる手すり・ドアノブ等については特に入念に・頻繁に消毒するなどホーム全体の衛生維持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファにて、歌番組の録画を見ながら談話されている。お部屋で、週刊誌や新聞を読んで過ごされている。ベランダにはベンチがあり、草花を植えたり、ぶどう棚があり今年初めてぶどうの収穫をした。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にお願いして、以前使用していた家具や、馴染みの深い物を持ってきていただいている。家族の写真を飾ったり、ご自分で作った貼り絵や塗り絵等を飾っている。	居室担当職員により誕生日のお祝い、衣替え、ケアプランへの意見答申等々がなされている。リビングで皆と過ごす共有空間と一人でゆったりと過ごす居室とのバランスをとりながら生活への支援にあたっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレの手すりを利用し移動されている。トイレには、手作りのトイレ表示を壁に掛けている。夜間は、奥のトイレの廊下には足灯を付けている。中央トイレの洗面所の電気は付けている。居室には表札を掲示。手作りの日めくりカレンダーを壁に掲示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174800597		
法人名	社会福祉法人みな福祉会		
事業所名	グループホーム大浜 西棟		
所在地	埼玉県秩父郡皆野町皆野302-2		
自己評価作成日	令和2年11月13日	評価結果市町村受理日	令和2年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9		
訪問調査日	令和2年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ベランダや近くにある畑で季節の花や野菜を育て、土や植物に触れることができます。育てた野菜を利用した献立や調理することで季節感や生活感を大事にしています。普段の食事のほか、おやつや郷土料理なども利用者様と一緒に作っています。利用者様全員が参加できるように個別の能力に合わせ制作物や家事などを行っています。日々の様子はパソコン入力し毎月家族に送らせていただいています。また、受診時にも利用し医師に日々の状態が分かるようにしています。コロナ禍、面会はドア越しやテレビ電話で行っています。研修や会議は法人内のSNSを利用して行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価【西棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「その人らしく 自分らしく とともに支えあい とともに生きる」に沿うよう、社内SNSを使用し、日々の個別の援助方法の検討や誕生会等の行事など実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、以前のような買い物や散歩等の外出が出来なくなったが、かかりつけの理容店や訪問診療の件数も増やし対応している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の中学1年生ボランティア体験学習の受入や、認知症カフェ「いってんべーあつまんべー」を毎月第3月曜日の午前中実施していたが、現在コロナ禍で3月より休止中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回業務・行事内容の報告や情報提供を行う。コロナ禍で令和2年3月は中止、5月、7月は書面で実施し9月は通常実施する。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度はコロナ禍で、外部評価の実施や運営推進会議開催について相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業計画の重点事項の一つにあげ、法人施設長が新年度が始まる前の職員会議で職員に説明し、法人全体として取り組んでいる。又、身体拘束廃止委員会を年4回実施、オンライン研修会を8月に実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業計画の重点事項の一つにあげ、法人施設長が新年度が始まる前の職員会議で職員に説明し、法人全体として取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価【西棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は成年後見制度の研修を受講している。入所者のうち1名制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には介護方針やケアのすすめ方等、契約時には具体的な契約内容、個別のケース対応の取り方など説明と相手からの質問など受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度はコロナ禍で面会制限等あり、ご家族と会う機会が少ないため、電話での状況報告やご家族の要望等聞く機会を多く持つよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理職会議(調整会議)を月2回オンライン会議で実施し、管理者だけでなく各部署の職員も出席し検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行いその評価に応じ年2回の賞与と年1回の昇給に反映させている。、又、昨年度法人として2度目の給与制度の見直しを行い、今年度は人事考課制度の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議はオンライン研修で行い、約10日の間に各自参加でき、外部のオンライン研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秩父郡市地域密着型サービス事業者連絡協議会の会議や年2回の研修会を毎年実施しているが、今年度はコロナ禍で休止している。		

自己	外部	項目	自己評価【西棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族に会い生活習慣や身体の様子が分かる様になっている。家族にはアセスメント表の記入をお願いして生活歴などを知っている。本人や家族に困り事、不安なことを聞いている。本人の欲しい物や食べたい物などの希望も取り入れるよう努力している。担当の介護支援専門員からも情報を得ようとしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族との話し合いの時間が充分取れるようにしている。精神的負担なども理解し家族の立場になって考えるようにしている。通院や生活必需品の購入なども相談しながら行っている。家族の対応が無理な時は承諾を得て代行している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と十分に話す時間を持っている。自宅での生活状況や困りごとなどを聞きながら、何が必要か対応方法を考えたり、アドバイスしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人らしさを大切にしている。喜怒哀楽を共にして本人の思いのまま、ありのままの姿で生活してもらえるよう努力している。又、人生の先輩である利用者から暮らしの知恵や季節の行事など教えていただいたり、煮物の味付けや調理の仕方なども参考にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話で連絡をこまめに取っている。本人の状況に応じ家族に協力していただきながら援助している。コロナ禍、家族にケース記録での受診をして薬をいただいたりしてもらっている。季節の衣類の交換なども無理の無いように行って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人などの面会や外出を行っていたがコロナの関係でおこなっていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人たちが落ち着ける環境を作っている。孤立したりしているときは、職員が間に入って関係がうまく作れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価【西棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もしくはらくは連絡を取れる体制を作っている。狭い町なのでスーパーや病院でお会いし声を掛けていただくこともありその後の経過をお話する事もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いや希望などを聞き気持ちに寄り添えるよう努力している。困難な場合は本人の様子を観察したり家族と連絡を取ったりして、職員間で話し合い、情報の共有をして対応を決めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話、家族との連絡のやり取り、アセスメントなどを通じて話を聞き、把握に努めている。又、居宅ケアマネからも情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常会話、家族との連絡のやり取り、アセスメントなどを通じて話を聞き、把握に努めている。又、居宅ケアマネからも情報を得よう努めている。一人一人に声を掛けてその日の心身の状態を把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス、ミニカンファレンス(状態に変化があった時など職員に聞き取ったりする)必要に応じて行っている。家族とは電話連絡を通して行い、本人とは時間を作り、話をしながら意見など反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを使用して整理している。PCも使用し日々の生活の様子や食事量、体重、血圧など記録管理を行い情報を共有しその後のケアに反映できるようにしている(平成22年1月より)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期通院以外でも、本人の状況、希望に合わせた通院、手芸好きな人人には必要な道具の準備を、読書好きな人には本の紹介や提供をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価【西棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍、ボランティアや慰問の受け入れなどはできない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族、本人の希望を聞き、以前からのかかりつけ医に引き続いて受診できるよう援助している。本人・家族の希望により受診の同行も行っている。受診時には毎日のバイタル表や体重、日常生活の様子が医師に伝わるようにしている。遠方の医師とは必要時の電話連絡にて相談		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画作成担当の一人が看護師資格を有している。必要時、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこまめに病院関係者や家族とも連絡をとり様子を把握している。病院関係者・家族と共に十分に相談しながら退院後のケアに反映できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化・ターミナルの方針をあらかじめ伝え、家族の意向も聞くようにしている。状況に応じて本人・家族・主治医と他施設への移転も含め、十分に相談しながら決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍、人を集めての訓練はできないためマニュアルが作成してある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間想定訓練を行っている。利用者にも協力していただき、戸外に避難する。地元の方と防災協定を結んでおり避難訓練に参加していただいていたが今年度はコロナ禍で地元民の参加は見合わせている		

自己	外部	項目	自己評価【西棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、表情、態度、しぐさには十分気をつけて対応している。入浴時や排泄時などもさりげなく行うよう努力している。受診時、研修生受け入れ時、外出時など外部の方との接触時も個人情報やプライバシーに注意するようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類は入浴前に自分で選択していただいている。食べたい物は献立に反映したり、出来るだけ本人の希望を聞きだしケアに反映しようとしているが、まだまだ不十分であり、職員の意識向上に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に考え対応しているが、職員のペースになりがち部分も見られるので、注意して対応している。帰宅願望者が増えたため買い物の回数を減らしたりして対応しているがケアが不十分になってしまうこともある。コロナ禍外出の機会が減ってしまい希望にそえないことも出		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや整容の支援を行っている。起床時も髪の毛のセットや髭剃りなど声を掛けながら行っている。食後は歯磨きの声掛けや介助を行っている。コロナ禍、家族と相談し希望者のヘアカラーや散髪を職員が行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で季節の野菜を採ったり、手打ちうどん、コロッケ、ギョーザ、焼きそば、おかずなどを一緒に作りったり森倭手足りしていただいている。おやつもたらし焼き、ホットケーキ、芋餅など一緒に作っている。食器拭きなどは複数の方が手伝いを申し出ている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の身体状況・主治医の意見も参考にしている。状況にあった食事形態や水分にとろみを使用している。月1回体重測定をして、毎食、食事を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいは食事前と外出後、歯磨き・義歯洗浄は毎食後行なっている。夜間は義歯の消毒をしている。声掛けの人から介助の人までその人に合わせて行なっている。必要時は歯科医の訪問診療をうけている		

自己	外部	項目	自己評価【西棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状況、排泄表を見ながら定時誘導や声かけを行い、残存機能を活用しながら支援している。日中は、車椅子の人も歩行の人も関係なくトイレで排泄できるよう援助している。夜間は、紙おむつ、尿瓶、ポータブルトイレ、車いすなどを使用しその人に合わせた排泄方法を行なっている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を見て、水分量を増やしたり、食事内容や形態を変えている。又、体操など身体を動かしている。通院時に主治医に相談し排便のコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間はある程度決まっているが、入浴の順番を交代したり、一人ずつ入ることによってゆっくり入浴していただけるよう支援している。菖蒲湯や柚子湯なども行い季節を感じていただけるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく休めるよう布団干し、洗濯など行っている。パジャマに着替え、湯タンポの使用などをおこない安眠できるようにしている。睡眠時間は一人ひとりに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のチェック表・処方薬一覧表を作成し確認、準備している。薬の説明書を読んでいただき、理解していただいている。本人の状態に変化の有ったときは、記録し受診や医師への連絡を取るようになっている。分からない事は医師や薬剤師に聞いたりしている。薬の変更時は職員全体にわかるように法人内SNSを利用し共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	動ける人は家事全般にわり、そうでない人はそれぞれにあわせた家事を行えるよう支援している。洗濯物のタオルを広げるだけの人もいるが役割のあることにより、落ち着かれるよう支援しています。居室で読書する人や手芸の好きな人もいますので本の紹介や道具の準備手伝いをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍、散歩や野菜を収穫に出かけたりはしているがほかの会出はできない		

自己	外部	項目	自己評価【西棟】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の金銭を持っている人もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には行っていない。どうしても利用者が落ち着かないときは家族の意向を聞き、電話で話ができるよう援助の体制はとっている。外部からの手紙は渡しているが現在は手紙を書く人はいない。家族からのライン電話は時間を決めて行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏には西日対策ですだれを使用し、心地よく過ごせるように支援している。テーブルやベランダには季節の花を植えたり飾ったり、落ち着ける空間を作っている。トイレとホールはなるべく温度差が無いようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ・玄関先にベンチを置いたり、ホールにはソファを置き使用できるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら、持ってきてもらっている。又、写真を貼ったり、活動の作品を貼ったり置いたりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて手すりを使用して移動できるようにしている。表札や造花をかけ、個々の居室がわかるようにしている。夜間のトイレは、ドアを開けておき、温度の変化を少なくし安全に入れるようにしている。またイラストや写真を貼り浴室や排泄場所などがわかるよう工夫している		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム大浜

目標達成計画

作成日: 令和2年12月22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	来春より職員面談の実施を非正規職員にも広げることを予定しており、意見の集約やホーム内の更なる風通しの良さに反映されることが期待される。	年度当初に個々に目標を立て、年度途中で話し合いを持ち、個々のレベルアップと部署のサービス向上を図る。	新しい人事考課制度のもと、8月から10月に全職員の面接を行い意見交換をし個々のレベルアップを図る。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。